

## 自衛隊員と家族の不安軽減を

～イラク派遣自衛隊員留守家族支援窓口設置～

1月19日(月)、市は、人道復興支援のため陸上自衛隊幌別駐屯地からイラクに派遣される自衛隊員の留守家族を支援するため、総務課に担当窓口を設置しました。

市の支援業務は、留守家族が行う行政手続や届出、それにかかわる各種相談業務などで、市では幌別駐屯地と連携を強化し、対応に当たることとしています。

また、「十分な準備と細心の注意をもって任務を全うし、全員無事に帰ってきてほしい」との思いを込め、『イラク復興支援派遣自衛隊員の任務遂行と無事帰国を待っています』と書かれた懸垂幕を市役所に掲げました。

この懸垂幕は、幌別駐屯地から派遣された自衛隊員が無事帰国するまで掲げられます。



市役所本庁舎正面に掲げられた懸垂幕

## 源泉湯かけ合戦でまつりの締めくくり

～第33回登別温泉湯まつり～

2月3日(火)と4日(水)の2日間、登別温泉とカルルス温泉で『第33回登別温泉湯まつり』(市、登別観光協会主催)が行われました。

この催しは、豊富な湯量とすぐれた泉質に感謝し、開運と無病息災を祈願するまつりとして、節分に合わせて毎年開催されています。

閻魔大王の使者である赤鬼と青鬼の『湯鬼神』が、郷土芸能『湯鬼神がぐら』を踊って厄払いをしながら、温泉旅館やホテルを回って宿泊客を喜ばせました。

4日夜には、登別温泉バスターミナルを会場に、まつりを締めくくる『源泉湯かけ合戦』が行われ、氷点下の寒さの中、紅白に分かれた下帯姿の若者たち約60人が豪快に湯をかけ合い、見物の市民や観光客らとともに、今年1年の開運と無病息災を祈願していました。



## ひと足早いひなまつり

～ひな人形づくり体験～

2月14日(土)、文化伝承館で『ひな人形づくり体験』が開かれました。

この行事は、郷土資料館が体験学習の一環として毎年2月に開催しているものです。

17人の参加者は、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の指導を受けながら、和紙などを使って、おびなやめびなをつくり、台座に飾り付けていました。

友だちと参加した藤堂ひかるさん(幌別西小学校2年生)は、「おびなとめびなに髪の毛をつけるのが難しかったです。お母さんに見せてから、自分の部屋に飾ります」とうれしそうに話してくれました。

また、会場では、市民から寄贈された明治末期・大正・昭和・平成の各時代のひな人形を展示する『ひな人形展』も開かれ、訪れた市民らは、年代順に並んだひな人形を興味深そうに見比べていました。

